318

亀ノ甲遺跡

（国分市府中町４番１号）

位置と環境

亀ノ甲遺跡は，国分市府中の向花小学校の敷地内に所在する。向花小学校の周辺地域は府中・向花・新町・姫城などの集落からなる。北部は姶良カルデラ壁と呼ばれる急峻な崖が岩肌を露にし，国分平野を二分して北の方から南の平野中心部へ延びる。そのカルデラ壁の南側は舌状の微高地となっている。この地域はかつて二つの川に挟まれ，西部を旧大津川（天降川）が南流し，東部を旧手籠川が流れて，両川は府中の南で合流し広瀬川となって錦江湾へ注いでいた。

調査の経緯

亀ノ甲遺跡は，昭和28年12月向花小学校の敷地拡張工事中に，学校西側の一段高い台地の地下（約1.2m～1.7mの砂層上）から発見された。当時の国分町としても貴重な考古資料と考え，河口貞徳・寺師見國両氏に調査を依頼し，現地での聞き取り調査等を実施している（第２図）。

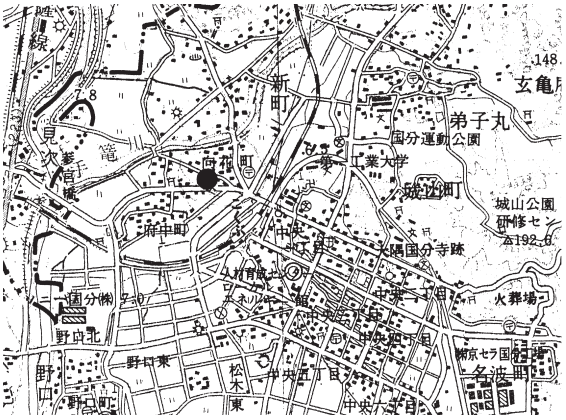
遺構と遺物

遺構は工事中の発見であり，遺構はすでに破壊されていたため定かではないが，当初出土遺物の状況から地下式横穴墓とされたが，基盤が砂層であるため構築は困難であり，土壙墓ではなかったかと思われる。

遺物については，河口貞徳・寺師見國が現地調査を行いそれぞれ所見を述べられている。両氏の報告に若干の差異がみられるので，両氏の報告を要約して記載する。

１）河口氏の報告から

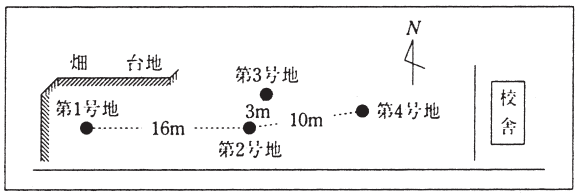
遺物は，台地南縁部に東西14mにわたって，４か所から発見された。西側の第１地点は，三累環頭大刀とその柄部に密着して刀子，柄頭に接して須恵器の横瓶１，坏２，45cm上に小刀１がいずれも水平位で出土し，第２地点では，宝珠鍔付大刀１，第３地点も宝珠鍔付大刀１，第４地点では，宝珠鍔付大刀１，鉄鏃４，刀子２と，その両端に土師器の坏と紡錘車及び須恵器の壺と坏がそれぞれ出土した。



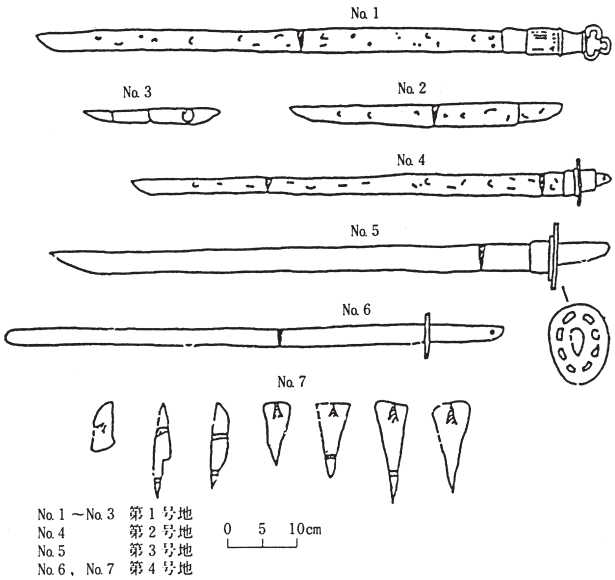
第１図　亀ノ甲遺跡の位置

２）寺師氏の報告から（第３・４図）

東勝美・荒田新吾の説明によると，遺物の出土は４か所で土壙はなかった。刀剣類は整然と水平位に土器類は縦に据えてあった。第１号地の出土品は三累環頭大刀と刀子１，小刀１，須恵器の平瓶１が出土し，第２・３号地はそれぞれ宝珠鍔付大刀が１振



第２図　遺物出土略図
（鹿児島県文化財調査報告書第四輯より）

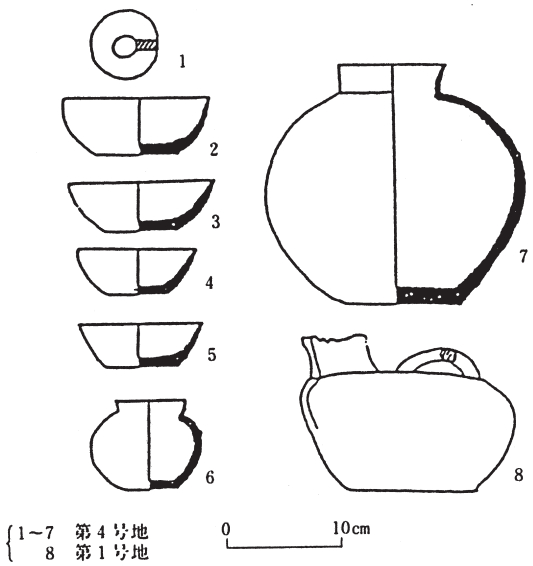


第３図　遺物出土の刀剣類
（鹿児島県文化財調査報告書第四輯より）

出土した。また第４号地は宝珠鍔付大刀１，鉄鏃７，土師器の坏１と紡錘車１，須恵器の坏３と壺２が出土した。

このように，両名の報告が若干の差異がみられるのは，工事中の発見であり遺物は取り上げられていたこと，また発見から月日が経っていたことも考えられる。

出土した遺物については，保管場所も点々と替わったこともあり，現在では刀剣類が若干残っているのみである。



第４図　遺物出土の土器類
（鹿児島県文化財調査報告書第四輯より）

特徴

亀ノ甲遺跡から発見された三累環頭大刀は，金銅製の完形品で，柄は糸巻きで，刀身は絹と麻でおおい，その上を滕で巻いてある。これは南鮮の古墳に数多く出土しており，舶来品と思われる。南九州では，ほかに三累環頭大刀の出土例がなく，大変貴重である。また，三累環頭大刀と共伴したと言われている須恵器の取り扱いによっては遺跡の時代が変わってくるので，今後の調査に期待したい。

資料の所在

出土遺物は，国分市教育委員会に保管されている。

参考文献

寺師見國1957「鹿児島県下の地下式古墳」『鹿児島県埋蔵文化財調査報告書第』４輯
国分市 1999『国分市郷土誌』上巻

（鈴木順一）

写真１　向花小学校近景

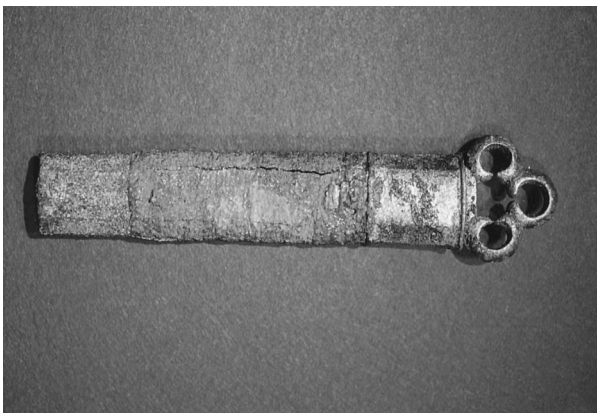


写真２　三累環頭大刀（柄）